

飼肥杉林分生長量の一観察

林業試験場宮崎分場 松尾 安次・川述 公弘

(1) 緒 言

杉の造林について、その土地に適した品種を選ぶことの必要なことはいうまでも有りません。これに関しは色々な角度から検討を加えられつつありますが、このことについて私共も一応おび杉に関し3つの地区

の林分につき調査を致しましたのでこの相互間の生長量の比較という観点から結果を御紹介したいと思いません。

(2) 調査地の概況

第 1 表

地区別	位 置	樹 品 種	樹 齢	海 拔 高	地 形	既 往 施 業
1 区	宮崎県児湯郡西米良村井戸内谷	杉, オビ, アカメアサ (熊本)	25年 25年	800m	南 向 平均 12°	L. H 天然林材跡地第1回人工造林, 除間材なし (田野地区挿木苗植付) 同上に観植(湯の前地区挿木)
2 区	宮崎県南那珂郡北郷村小松山国有林. 59林班く小班	おび, トサアカ (稍黒味) 2~3品種混じる	30年	400m	東 南 東 15°	L. H 天然林材跡地第1回人工造林, 除間材各1回実施. 昭和28年2回目の間伐直後 (挿木苗植付)
3 区	宮崎県東諸方郡楠見国有林29林班と小班	おび, タノ, アカを主とする5種混じる	38年	150m	東 北 向 17°	営場跡第1回人工造林地. 植付の繼除間伐なし (挿木苗植付)

降 雨 量

地 区	1948年	1949年	1950年	1951年	1952年
1 区 (西米良)	1,914mm	4,274mm	4,116mm	3,373mm	2,843mm
2 区 (北河内)	3,294	4,366	3,808	3,261	3,850
3 区 (綾)	2,593	4,015	3,846	2,871	2,826

1区は植付当時から第2表(後記載)通り疎植のもので樹形はウラゴケとなっています上に枝下高が低い状態に有ります。(調査28年8月)

2区既往に於て除伐間伐がしてありますが、植付本数はha当り1200本程度だった様であります。枝下高は大で、形質は良い様です。調査は28年9月間伐途中の林分でありましたが、第2表の数字は間伐前のものとなっています。

3区植付後の保育間伐など全然手を下してない林分で(下刈は行つた様です)これは同程度の条件の環境にある保育の充分な林分と比較のため調査したものでありますが、一応ここに参考に揚げました。

(3) 調査の方法

(A) 各地区共胸高直径は輪尺により毎木調査(平均)を、樹高は3区は測樺により毎木調査1区, 2区は標準木のみ登つて測定した。

(B) 総材積算定はウーリツヒ第2法を用いました。

3区共標準木は区分求積を行いました。

標準木本数は次の通り。

1 区	12 (9)	計21本
2 区	4	
3 区	9	

(C) 生長量の査定

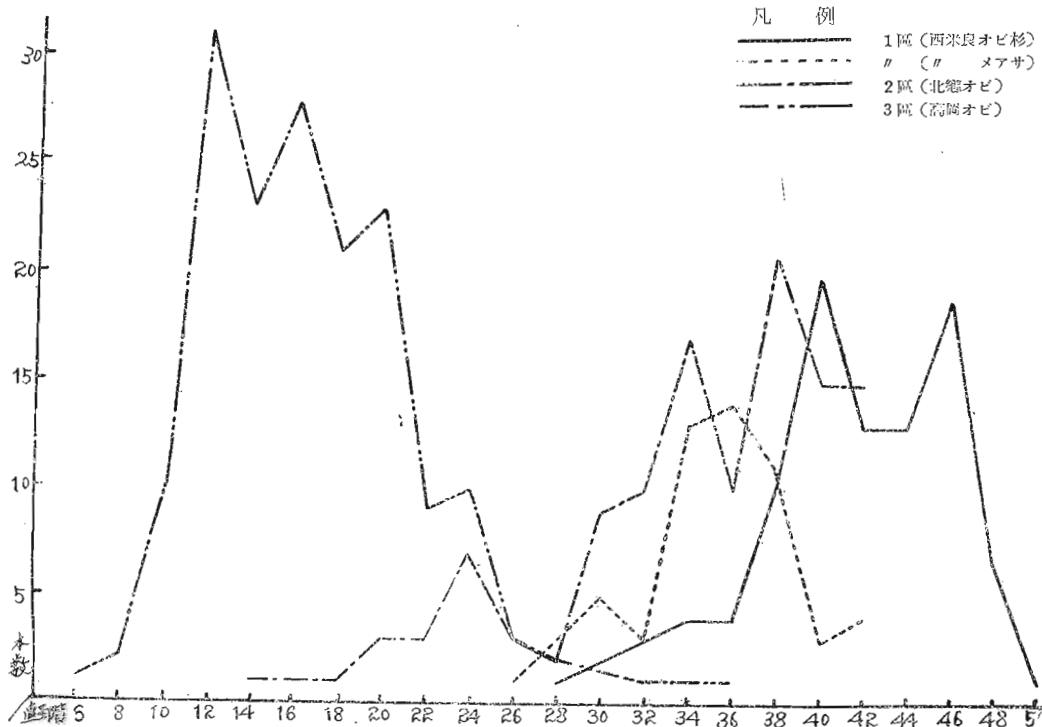
3区共中央木(中央直径, 平均断面積を有するもの)1本を選び樹幹解析を行いました。(これは前(A)のものとは別)

(4) 調査の結果

(1) 最多本数直径について

1 区	おび杉	40cm, 46cm	最多
	めあさ		
2 区		38cm	〃
3 区		12cm 16cm	〃

径級別本数分配曲線



第2表 調査の概要

地区	区画	面積	本数	材積	1 ha 当換算				備考
					本数	%	材積	%	
1区	m m 30×70	0.21	92	113.98m ³	438		542.73		あか 25年生 めあき 25年生 Aに対する%
	計		149	146.88	709	136	704.22	191	
2区	30×100	0.30	163	176.75	543	120	589.02	128	30年生 Bに対する%
3区	20×50	0.10	165	33.205	1,650	237	332.05	136	38年生 Cに対する%
収分					520		367.2		A地位上25年生
肥					453		460.7		B' 30年生
杉					695		244.1		C地位下35年生

(2) 林分の成立本数材積について (第2表)

1区はおび杉、メアサと混植して有る関係上おび杉そのものと比較しては不十分であるが、収肥帯林畧で採用している収肥帯と比べて生長曲線にも現われている様に1区、2区は極優良な林分であるが、特に1区がすぐれている事が注目されます。

(3) 生長量

樹高、直径、材積について夫々総生長量、連年生長量、平均生長量の3種につき検討を加えた(材積生

長曲線添附)

- (a) 樹高 1区が現在迄の生長量はすぐれている。
- (b) 直径 10年位までは2区がすぐれ、15年当りから1区が上廻っている形を示す。
- (c) 材積 15年当りから1区がすぐれて来た形を示している。

(5) 結 び

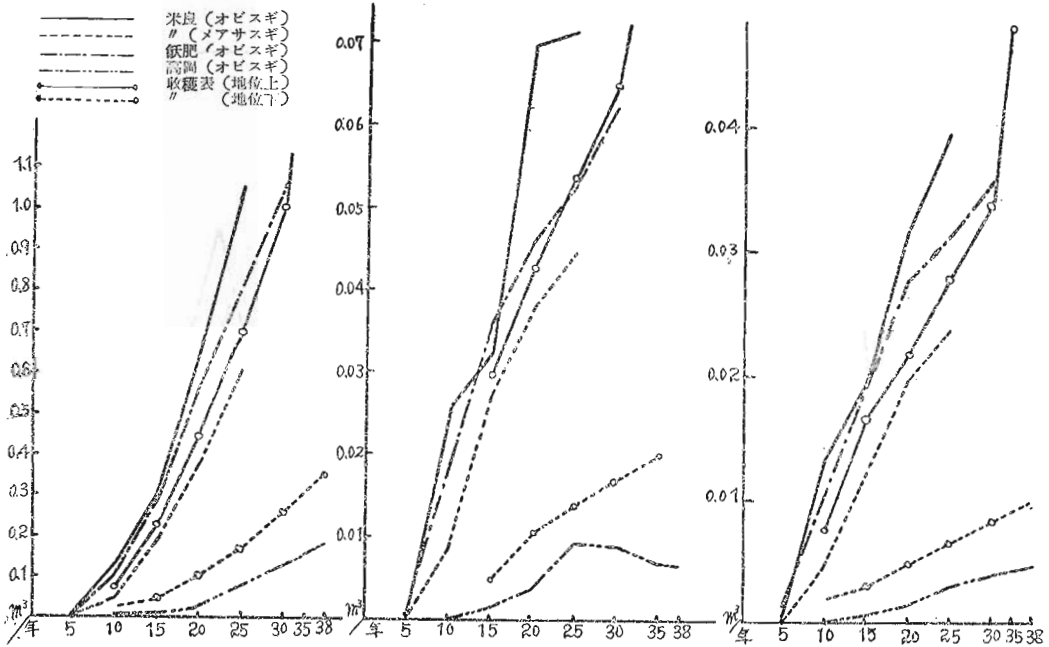
この調査も各地区の今後の生長がどんなに変化する

材 積 生 長 曲 線

総 生 長 量

連 年 生 長 量

平 均 生 長 量



か或は成立本数の問題、保育の程度などにより種々論もあることでいろいろな条件ファクタも揃っていない点もあり、厳密な意味での直接比較は無理かと考えられますが以上を概括して宮崎県北その他の方面に於てもおび杉は優秀な造林成績を示すことがうかがえます。第3区の分については保育の手が加えられないも

のは極端に生長が劣ることがうかがえるが、このことについては別途色々な角度から検討する資料にする予定です。

尙同一現場にある(1区)メアサはおび杉より遙かに生長が劣っている事も注目されます。

宮崎地方薪炭林施業の改善に関する研究 (第4報)

九州大学 井 上 由 扶
宮崎大学 三 善 正 市・緒 方 吉 箕

宮崎地方の薪炭林はこれを大別してコジイを主とする林分、カシ類を主とする林分及びシイ類、カシ類、タブノキ、イスノキその他広葉樹を混交する林分の3つとなすことが出来る。この他にコナラ林、クヌギ林が成立しているが、最近殆んど椎茸原木として利用されるようになった。本報では薪炭林の現況特に林分構成の状態を詳にするため、宮崎県内各地国有林及び一部民有林の薪炭林に標準地(各営林署又は担当区の所管薪炭林に於ける標準的林分と見做されるものを選定)を設けて調査を行ったので、その結果の概要を述べる。標準地選定個所は国有林各薪炭林作業級で尾鈴(2ヶ所)石河内(4)吹山(3)宮崎(3)内山

(1)高岡(2)須木(1)都城(3)白鳥(2)矢岳(1)小林(3)高原(1)翁島(2)飯肥(3)福島(2)及び民有林(3)宮崎大学演習林(2)計38ヶ所である。調査地の林齢は13年(1ヶ所)14年(1)15年(2)16年(1)18年(1)19年(1)21年(2)22年(2)23年(4)24年(2)25年(6)27年(2)28年(1)29年(3)30年(4)31年(2)32年(2)36年(1)でカシ類を50%(材積)以上混交する林分(4)シイ類を50%以上混交する林分(15)その他(19)であるが、これを熊本営林局調による炭材林の樹種の等級により現出樹種を上、中、下に分類して(上)の混交歩合により分けてみる。